

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 90 歳以上の急性期血栓回収療法の 1 年後の治療成績

[研究責任者] 脳神経外科 大多和賢登

[研究の背景]

超高齢者への血栓回収療法（脳の太い血管に詰まった血栓をカテーテルで物理的に除去し血流を再開させる超急性期脳梗塞療法）施行は増加していますが、1 年後転帰に関するエビデンスは乏しいです。2016 年から 2025 年に当院で血栓回収療法を施行した 90 歳以上の連続症例から、診療録をもとに背景、治療内容、転帰を収集します。

主要評価項目は発症後 3 か月及び 1 年後の modified Rankin Scale* とし、超高齢者における血栓回収療法の治療成績を検討します。

*modified Rankin Scale

脳卒中などの病気の後遺症による「日常生活の自立度」を測る世界共通の指標です。症状の重さではなく、「どのくらい自分一人で生活できるか」を 0～6 の 7 段階で評価します。

[研究の目的]

本研究は 90 歳以上の急性期脳主幹動脈閉塞患者に対する血栓回収療法の長期転帰を明らかにすることを目的とします。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

西暦 2016 年 4 月 1 日から 2025 年 5 月 31 日の 90 歳以上の脳梗塞に対する血栓回収療法を施行された患者さん

●研究期間：臨床研究審査委員会 承認日から 2026 年 12 月 31 日まで

●利用する検体、カルテ情報

カルテ情報：

年齢、性別、診断名、身体所見、CT 所見、MRI 所見、点滴内容、内服内容、既往歴、血管内治療画像、治療時間、治療デバイス、血液検査、治療予後

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

脳神経外科 大多和賢登

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913